



CALENDER 2008.4-2009.3

DESIGN GRADUATION WORKES
INTERFACE,INTERIOR,PRODUCT,GRAPHIC,CRAFT

2008 卒業作品集

会津大学短期大学部産業情報学科 デザイン情報コース

ごあいさつ

この「作品集」は、「卒業研究ゼミ発表会」、「卒業研究ゼミ要旨集」、「卒業展」と、様々な機会を通して広く公表し多くの方々からご批判を仰いできました、卒業研究ゼミの成果を示す最後のものです。

「作品集」の発行は今年度で4回目を迎え、内容の充実とともに、より身近な存在となるよう編集を改めました。

産業情報学科では、「卒業研究ゼミ」を必修科目として位置付け、1年次の後半からプレゼミとして実施し、2年次より具体的なテーマを設定し、問題解決能力や創造性の研鑽に取り組んでまいりました。その内容はWebデザイン、グラフィックデザイン、漆工芸作品、街づくりと様々ですが、いずれも地道な研究を裏づけとした力作です。今年の特徴としましては会津地方振興局の「会津の宝事業」に協力した「Webサイトと動画による地域情報発信プロジェクト」や「空き家等地域情報データベース構築計画」、福島県の「子育て、子育て支援事業」への協力した「食育教材のデザイン」など地域と密着したテーマが多くございます。

学生諸君にとっては、学生時代の創作への熱意と活力に満ちた日々々の証として、知性と感性を傾け、創造への情熱を持って過ごしたときとして、喜びに満ち、時には苦しみもした、或いは挫折感を味わったときでもあります。そうした中から創造された作品たちは、ある意味、ときの記憶でもあり、良き思い出のアルバムになるものと期待しております。

卒業する学生諸君には、この「卒業研究ゼミ」で経験したプロセスと反省を通じて、創造することへの喜び、諸問題に取り組んだ挑戦するエネルギー、充実したときを過ごして得た達成感などを思い出しながら、今後の社会生活の中で果敢に展開し、更なる飛躍に繋げていってほしいと願っています。

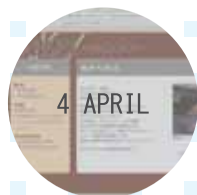
最後に、卒業研究および卒業制作にご支援、ご協力をいただきました学内外の関係者の方々に深く感謝するとともに厚く御礼を申し上げます。また、この作品集は広く学外にも配布して、諸賢の御高覧に供しています。

皆様の忌憚のないご意見、ご批判を賜れば幸いに存じます。

平成20年3月

会津大学短期大学部産業情報学科
学科長 時野谷 茂

28人 × 18プロジェクト



4 APRIL

web サイトと動画による
地域情報発信プロジェクト



5 MAY

会津・水の輪・再生
会津若松市における外堀の
現況調査と水辺空間の再生提案



5 MAY

和スイーツの
ブランド展開



6 JUNE

宝物入れ



7 JULY

「会津の宝」活用事業
における空家等地域情報
データベース構築計画



8 AUGUST

会津若松における
ライトスケープ・デザイン
大町通り光環境の提案



8 AUGUST

写真集



9 SEPTEMBER

漆による
古い家具の修復・再生



9 SEPTEMBER

花暦
～一期一会～



10 OCTOBER

住民中心のまちづくり



10 OCTOBER

会津地域における
民俗歌アーカイブスの提案
～警女の歩いたうたの道～



11 NOVEMBER

パブリックファニチャーの
研究と提案



12 DECEMBER

食育教材のデザイン



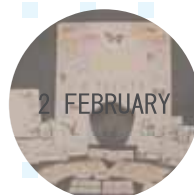
1 JANUARY

こもる



1 JANUARY

人生のパズル



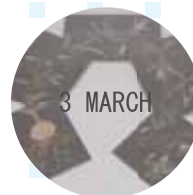
2 FEBRUARY

ビーズショップの
販売促進



3 MARCH

想 ーソー



3 MARCH

えがく



東北三大あやめ祭りの一つです。見ごろは6月下旬で伊佐須美神社にて開催されます。



このコース、実はかなり急な坂が多く、体力に自信がある方向けなのです。

web サイトで発信されている動画



web サイト

会津の中山間地域も全国同様過疎化が進んでいる。そこで、交流人口の促進を図っている福島県会津地方振興局の方々と協力して、会津地域の活性化のためwebサイトによる全国への情報提供を行う。観光地・特産品など会津の魅力や、住宅地の情報を伝えるため、取材をして動画を作成する。最終成果物として、これらの動画をまとめたwebサイトを制作し、会津地方振興局のwebサイトに掲載することで情報発信をする。

16	前期履修登録 定期健康診断(2年生)
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	定期健康診断(1年生)
24	
25	
26	
27	
28	
29	昭和の日
30	



外堀があった野口英世青春広場に水辺空間をつくる。広場全体を浅瀬の親水広場とし、島状の休憩施設をレイアウトしていく。

以前、外堀のあった場所にライン状のドライミスト-霧-を発生させ、外堀の幻影を楽しめる場所としてデザインした。

AIZU・MIZUNOWA・SAISEI
会津・水の環・再生

アクリルボード・スチレンボード
綿・スポンジ
840×620×150

MINAMI Otake
大竹 南

昔はどこにでもあった水辺の風景を取り戻したい。このことから、会津に存在していた最大の水辺空間である外堀について調査した。研究を進めると、外堀について記憶のある方は現在では少なくなっていることがわかった。しかし、会津に外堀が存在していたということは事実であり、この歴史を伝えていくことが大切であると感じた。その提案として、野口英世青春広場に水辺空間、外堀の通っていた所に外堀の存在を思い出してもらえるような提案をした。

1

2

3 憲法記念日

4 みどりの日

5 こどもの日

6 振替休日

7

8

9

10

11 母の日

12

13

14

15 オリエンテーションキャンプ



takaramono ire
宝物入れ

研出し蒔絵・平蒔絵・上絵
朴の木・銀・呂色漆・平目粉・丸粉
260×172×150

今の自分があるのは今までのたくさんの人との出会い、関わりがあるからである。箱は内にあるものを保存するだけでなく、思い出も込めることができる。箱の中にあるものを大切にしておくという箱の意味や機能に私自身の今までの出会い、思い出を大切にするという考えを表現したいと思い、箱を制作した。

出会い、思い出は私にとって宝物であるので、箱を宝物入れとした。人との出会い、別れを季節の変化で表現し、いろいろな人と出会い、成長・変化する自分の姿を鳥に重ねて描いた。

RIE Endo
遠藤 理栄

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15 父の日

工 程

木地制作
布着せ
下塗り
錆付け
中塗り・上塗り
加飾
研ぎ出し蒔絵・平目粉
平蒔絵・丸粉
螺鈿
金具・蝶番取付

自分で設計した箱の設計図を木地師の方に見て頂き、細部を検討し木地制作に移った。かけごを付け、また畳ずれといって畳や床に擦れて痛む角の部分を削っておくことも加えている。実習助手である後庵野さんのご指導を頂きながら制作した。

季節の流れを表す4本のラインを研ぎ出し蒔絵で表現し、背景とした。それぞれの季節の花と鳥は平蒔絵と上絵で描いている。



1 箱の設計図を木地師の方と検討



5 錆付けをし凹凸を平らにする



2



3

2 鉋で箱の裏側を削り、畳みずれを加える

3 木地完成



6

6 粉蒔 (平蒔絵)



4

4 布着せで木地を補強



7

7 色漆と平目粉を使って葉を描く

16

17

18

19

20

21 夏至

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31



金山町調査



喜多方市・西会津町



喜多方調査

三島町・金山町
柳津町・昭和村喜多方
ヒアリング

ワークショップ

現地調査・ヒアリング

development of void-houses database in 'AIZU no TAKARA'
「会津の宝」活用事業における空家等地域情報データベース構築計画

ERI Igarashi
五十嵐 えり

HIROKO Chiba
千葉 宏子

RISA Nagasawa
永澤 莉紗



現在、会津では過疎化や高齢化に伴い、年々“空家”が増加している。そこで福島県会津地方振興局と会津短期大学部、対象となった喜多方市・西会津町・柳津町・三島町・金山町・昭和村が連携し取り組んでいるのが“会津の宝活用事業”である。そのような空家を地域資源と考え、移住希望者に物件や土地の情報を提供し人々を呼ぶことで、その地域の空き家の利活用と活性化を図る。

1

2

3

4

5

6

7 ^{セタ}

8

9

10

11

12

13

14

15

現地調査や移住先駆者へのヒアリング、ワークショップを通して得た情報を元に地域の受け入れ体制や活用方法を検討し、最終成果物として空き家情報のデータベース化と空き家物件紹介サイトを制作した。サイトの物件紹介ページには検索プログラムを導入し、キーワードや地域を選択することによって希望の物件を絞り込むことができる。実際に物件の下見を希望する人はメールフォームから自治体に問い合わせ、その内容に各市町村の自治体に対応するという仕組みとなっている。



福島県会津地方振興局

<http://www.pref.fukushima.jp/aizu/shinko/index.html#top>



16

17

18

19

20

21 海の日

22

23

24

25

26

27

28 前期定期試験(～8/1まで)

29

30

31



「空の色」



「地面の色」

仕事、勉強、対人関係など理由は様々ですが、現代のほとんどの人は疲れを感じている。

体の疲れは睡眠、休養、マッサージなどである程度解消する事が出来るが、心の疲れはそういったもので解消される物ではない。

そういった人たちの心の疲れを少しでも緩和出来るような作品を作れればと思い、調査結果を元に、「風景」というテーマで「空の色」と「地面の色」の2種類の写真集を制作した。

a photograph collection
写真集

光沢紙
210×215×20

MEGUMI Watanabe
渡部 めぐみ



16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31



1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

敬老の日

renovation of furniture by urushi
漆による古い家具の補修・再生

補修成形・木地呂塗り・加飾
60年前の書棚・漆
820×225×1350

漆が文化財の保存修復などに用いられていることに着目し、その技法を用いて、傷んでしまった古い家具の補修・再生を行うことにした。素材には、私の曾祖母が使用していた昭和初期の本棚を使用した。

古い物を手直して再び使う、というのは、近年注目されている「スローライフ」の考えに通じるものがあり、時代のニーズに沿っていると思う。そこに漆を用いることは、漆の新しい在り方の一つになり得るのではないかと思った。

KANAKO Tamao
玉應 可奈子



この2年間での様々な人との出会いを振り返り、私は改めて両親がくれた自分の名前の意味を考えた。「植物を見て何か感じられる人に」小さな存在を大切に出来るなら、どんなものにも優しくなれるのではないかと思う。だからそこにはきっと、あらゆるものへの慈しみの心が込められているのだらうと考えた。私をつくった全ての出会いに感謝して生きていきたい。そんな気持ちを忘れないように、自分なりに形にして傍に置きたい。そんな想いから、12ヶ月を花で表す暦を作った。

'HANAGOYOMI' ichigoichie
花 暦 ～ 一期一会 ～

呂色塗り・蒔絵
下地板・磁石・漆
130×130×24 枚,300×270×150

AI Nishikawa
西川 藍



16

17

18

19

20

21

22

23 秋分の日

24

25

26

27

28

29

30

31 後期学科別ガイダンス
文化講演会



六十里越 峠頂上付近



手引き



八十里越入り口 叶津



門付け

近代の伝統的文化の衰退に伴い、日本全国の各地域に保存されてきた貴重な文化が消えつつある。有形・無形を問わず文化の消滅が進んでいる現状を知り、自分の近くにあり、いちばん慣れ親しんできた文化である民謡に着目し、民謡の調査を進めるなかで「瞽女」の存在が民謡と深い関わりをもっていたことが判明し、これを卒業研究とすることにした。

瞽女とは、三味線を携えて全国を旅し、民衆の前で語り物や流行歌を披露して生活を立てていた盲目の女旅芸人である。



最後の瞽女・小林ハルさん。
お弟子さんにお話を伺った。

江戸時代から栄え、昭和50年代に最後の瞽女が活動を止めるまで、約370年に渡って活動は続いた。全国各地に様々な流派が存在したが、一般的には越後瞽女（現・新潟県）が有名である。たいてい瞽女になる者は貧しい身分が多く、生まれつき全盲か、幼くして視力を無くして瞽女の親方に弟子入りする者がほとんどであった。唄はすべて耳からの聞き取りだけで覚え、親方から弟子へ伝授するというかたちで代々伝えられていった。

会津地域には主に新潟県から訪れる瞽女が多く、南会津がその通過地点であったことが判明した。お年寄りや瞽女唄継承者の方にヒアリングを行うなどして、瞽女の記憶が明確になると同時に座頭（按摩を仕事にしていた盲目の男性）などが会津地域を旅していた経緯と、瞽女や座頭が渡った険しい峠や坂のお話も聞くことができ、地域の歴史と瞽女の歴史が関係していたことを知ることが出来た。

民俗歌アーカイブスの形成は、瞽女の研究を通過したことでその意味が深くなったように思う。人々に知られることのない、陰に潜んだ歴史が身の回りの身近な文化を形成していることは、民俗的文化が形成される過程をはっきりさせるうえでとても重要だった。今回の研究のような視点を忘れずに、身の回りの人々の歴史や文化にさらに触れていきたいと思う。

a study of traditional songs archive in Aizu area

会津地域における民俗歌アーカイブスの提案

～瞽女が歩いたうたの道～

只見町・布沢でお年寄りに瞽女についてヒアリングを行った。只見町は八十里峠、六十里峠の合流地であり、新潟から数多くの瞽女が訪れていたことが分かった。「ごぜんかせ」「ごぜころばせ」と呼ばれる道の難所があることも今回の調査で明らかになった。



HARUKA Shirasaka
白坂 春香

16 後期履修登録

17 後期履修登録

18

19

20

21

22

23

24

25

26

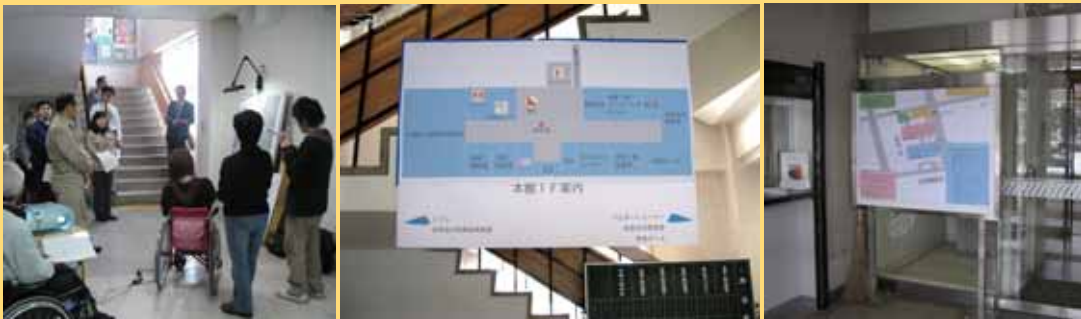
27

28

29

30 開学記念日

31 ハロウィーン



a study of public space furniture
パブリックスペースファニチャーの研究と考察

品合板・堅木・鬼目ナット・平ねじ
1700×570×800

誰もが自由に利用・出入りできる空間をパブリックスペース、そこに設置されている家具的なものの総称をパブリックスペースファニチャーとし、会津若松合同庁舎におけるサイン計画とベンチ設置の提案を行った。サインとベンチのデザインは紙飛行機をモチーフとしており、庁舎が一般の方々にとってより親しみやすく憩える空間となることを目指した。庁舎の方々を始め、沢山の方と関わり協力し合いながら取り組んだ卒業研究となった。

TADAKAZU Konno
今野 忠一

1

2

3 文化の日

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15 七五三



卒業研究の習作としてデザインしたベンチ。磐梯山の写真を撮るためのスポットとして猪苗代に竣工されたウッドデッキに、地元のスギ間伐材を使用したベンチのデザイン依頼が研究室に来た。採用された提案は、二つの正方形の枠をずらし傾けることで、座面と背もたれを作り出すデザインになっている。いろいろな景色を楽しんでもらうために、沢山の座り方を提供できるようにした。環境を読みとる大切さを学んだプロジェクトとなった。

16

17

18

19

20 推薦・社会人入試

21

22

23 勤労感謝の日

24 振替休日

25

26

27

28

29

30



フライパンの枠に食材のピースをはめ、ひっくり返すと料理ができるというパズル。
種類は「お好み焼き」・「チャーハン」・「オムライス」・「ハンバーグ」・「ホットケーキ」の5種類。
パッケージにはガス台が描かれており、台の上で遊ぶことができる。

design of teaching children about a healthy eating
食育教材のデザイン

ブナ・アクリルペイント・ボール紙
400×260×70

RIE Ando
安藤 里恵

KANAMI Ozeki
大関 奏美

近年、全国各地で食育運動が盛んになってきており、福島県でも「子育て、子育て支援事業」といった県内三大学の連携をもとに「食育支援事業」、「食育教材開発事業」、「支援普及・啓発事業」を行っている。この事業には、食物栄養学科の鈴木（秀）ゼミがこの事業に携わっており、今回は協力しながら食育教材の開発を行うことになった。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

食育は、もともと家庭内で行われていたことですが、今日の家庭では子供が炊事の手伝いをあまり行わないことや外食の利用が多いことなどから「食」の知識が不足しているという現状がある。そのため、普段食べている料理がどうやって作られているのか、どんな食材を使っているのかということがわからない場合があるので、普段食べている料理がどんな食材から出来ているのかを知ってもらいたいと思い、簡単な教材を考えた。



食物栄養学科の鈴木（秀）ゼミとのミーティング



幼稚園でのワークショップ。こどもたちに遊び方の説明。



こどもたちに実際に遊んでもらい教材の検証を行った。

16

17

18

19

20

21 冬至

22

23 天皇誕生日

24 クリスマスイブ

25 クリスマス

26 冬季休業（～1/7まで）

27

28

29

30

31 大晦日



KOMORU
こもる

スタイロフォーム成形・布着せ・漆加飾
スタイロフォーム・麻布・漆
1000×1000×1350

YUKO Hamano
濱野 優子

日常生活において疲れを感じたとき私は「こもりたい」と思う。なぜ、そこでこもりたいと思うのか？こもることの意味は？考えた結果、「動くためには何もしない時間・場所が必要だ」という答えが出た。そして実際に「こもる」空間を制作し、自分なりの「こもる」意味を主張することを卒業制作にした。この中に入ると何もできないのですが、何かを考えてしまうのだ。途中で用途が変わっていくのもまた楽しいものだった。

1 元旦

2

3

4

5

6

7 七草

8

9

10

鏡開き
11

成人の日
12

13

14

15



16

17

18

19

20

21

22

23

24

25



26

27

28

puzzle of life 人生のパズル

漆絵・研出し蒔絵・ななこ塗
木地・漆・銀粉・銅・金粉・螺鈿
685×540×20



YUKARI Hayakawa
早川 由香梨

「10年後」という言葉を冒頭に置いたとき、自分は漆で何を伝えていけるのか？と考えたとき、私は咄嗟に技法を思いついた。

多くの技法を取り入れた作品を作れば「漆にはこのような表現の仕方もあるのか」ということを知ってもらえるのではないかと感じたのだ。パズルはピースも多く子供も大人も遊べるという利点があるので漆というモノに近く触れ合うことができる。

漆器は保管するモノではない、身近で触れ合い使うことで、漆の暖かみを感じることができるということを知って欲しい。

29

30 後期定期試験(～2/5まで)

31



sales promotion of beads shop
ビーズショップの販売促進

クラフト紙・ビーズ・紐
730×517
297×210
190×140×45
160×118
105×90
55×90

CHIEMI Kusaka
日下 智恵美

私は長年、趣味でビーズ手芸を楽しんでいる。そんな時、ある手芸店で商品を購入したときにもらった紙袋には業者の広告が掲載されていた。また別の店では、きちんとデザインされた紙袋に包装してもらえた。店のグラフィックツールがデザインされていると、またこの店で購入したいという気持ちになり、それが研究のきっかけに結びついた。

1

2

3 節分

4

5

6

7

8

9

10

11 建国記念日

12 I期入学試験

13

14 聖バレンタインデー

15

はじめに、ビーズショップや包装紙などについてのアンケートをおこないました。結果として、どの年代からも圧倒的に人気のあったAのサンプルを参考に、「蝶」のモチーフと「赤」をイメージカラーとしたデザインの紙袋を制作した。

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28



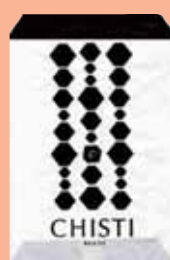
A



B



C



D



E



F



egaku
えがく

研出し蒔絵・平蒔絵
木地・漆
360×300,450×330,505×305
430×320,390×260

ERI Watanabe
渡辺 恵理

「えがく」ことを幼い頃から小中高、短大において、何らかの形ですぐ側に在り、そう在るように選んできた。描くとは私の脳内のイメージ、想像、妄想、そして私自身に至るまで吐露できる事だ。成人、学生の終わり、社会へ出ること、様々な区切りと共にこの作品を「えがく」というテーマに据えることは、過去の描いてきたことを振り返り、これからの描くことに対する技術の上達と意志の確認であり、それらを蒔絵パネルで描くことで昇華したいと思った。



16

17

18

19

20 春分の日

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

横尾ゼミ interface deisgn

「IT関連のデザイン産業のひとつの分野であるWebサイト製作分野をターゲットにデザイン実習を行っています。」
ゼミの担当教師である横尾誠先生はこう語っています。
インタフェースではflashやDreamweaverなどのソフトの勉強だけでなくデザインに重要な勉強もでき幅広い分野に着手できるすばらしいゼミです。
また就職先も多種多様で、ここでもこのゼミの自由度がわかるといいます。のびのびとしたゼミなので自分の本当になりたいことを追い求めてとことん追求することのできるよいゼミ、それがインタフェースゼミです。



牧田ゼミ interior deisgn

私たち牧田ゼミ + 五十嵐は会津の只見川流域、いわゆる奥会津地域を心から愛しています。ですが今、過疎化や高齢化などの問題により、その奥会津地域が危機にさらされています。
私たちは今回の卒業研究のテーマとして、喜多方市、西会津町、柳津町、三島町、金山町、昭和村を対象に会津地方振興局や対象6市町村と連携し、空き家のデータベースを構築し、最終成果物としてはインターネットによる空き家の紹介サイトを作成しました。



柴崎ゼミ interior deisgn

モチベーションを高めたい。もっと体力をつけたい。精神面を鍛えたい。何かに追われているような危機感がほしい。旅行に行きたい。とにかく強くなりたい。そんな方が入るべきゼミは柴崎ゼミです！
2年間で自分でも驚くほどの力を身につけることのできるゼミ。
それが柴崎ゼミです。春には桜を見に行けます。夏には車で旅行に行けます。秋には研究の進み具合に危機感を感じることが出来ます。冬には極寒に絶えながら、人生で何度も経験することのできない焦りからの眠れなさを体験することが出来ます。楽しみながら強くなれるゼミ。それが柴崎ゼミです。



高橋ゼミ graphic deisgn

私たちグラフィックゼミは、紙面を媒体としたポスター、DM、パッケージなどのデザインをしています。人の気持ちを考えてデザインをすること、その中に自分らしさを活かすということがいかに難しく、そしてモノをデザインすることでのやりがいと楽しさを感じました。

予定通りに事を進めるのが苦手な私たちに、高橋先生は細かな指導をしてくださいました。

作品展や卒業研究発表会などの前日はとても大変だったけれど、デザイナーとして踏み出す励みになる2年間でした。



井波ゼミ craft deisgn

クラフトゼミでは井波先生の指導の元、かぶれながらも明るく楽しく、まじめに漆芸を学んでいます。慣れない作業に手間取ることも多く、ゼミ室に炊飯器などを持ち込んで、夜遅くまで作業をすることもありました。

漆の技法だけでなく、産地やその現状についても学び、漆の植栽に行ったり、漆かきを体験したりしました。採りたての生漆に触って盛大にかぶれたことも良い思い出です。

この二年間で、他では得られない貴重な経験をすることが出来たと思います。



時野谷ゼミ product deisgn

私たちは日々製品のコンセプトを考えたり、模型を作ったりしています。汚れや怪我が日常茶飯事のゼミですが、皆で作品を作り上げたときの達成感は人生にとってとても大きな糧となることでしょう。

自分の作った製品を愛してこそそのプロダクトゼミです。

教授の時野谷先生はとても厳しい先生ですが、時折隠された優しさを見せては私たちに励ましてくださいます。

プロダクトゼミは、間違いなく自分を成長させてくれるゼミだと思います。



産業情報学科デザイン情報コース
department of management
and design, Design course

インターフェイス
interface deisgn

インテリア
interior deisgn

グラフィック
graphic deisgn

クラフト(漆芸)
craft deisgn

プロダクト
product deisgn

デザインの視点から情報化社会と向き合う

情報技術の急速な進展、社会の複雑化・高度化、少子高齢化、地球環境の変化などに伴い、産業界では幅広い視野に基づいた発想や判断がより重要度を増しており、市場環境の変化に対応できる柔軟性と創造性を持ち、高度な専門性を備えた人材が強く求められています。こうした状況を踏まえて、産業情報学科では経営情報コースとデザイン情報コースの2コースを配置し、それぞれの視点から今日的課題を見つめ、情報化時代に柔軟に適應できる統合能力を有する人材育成を教育目標にしています。

デザイン活動には産業・社会・経営等に関する幅広い視点から問題の把握・分析、創造性豊かな感性と展開力、時代を読む解決能力などが合わせて求められています。デザイン情報コースでは、デザイン及び情報の基礎的能力を育成する専門教育科目を学ぶと共に、より専門性を深めるために、デザインの領域をインターフェース、インテリア、クラフト、グラフィック、プロダクトの5分野に分け、その領域に関連する専門教育科目を配置し、情報化時代におけるデザイン活動と歴史・文化・環境などに配慮した、モノ・事のデザインができるデザイナーの養成を目指します。

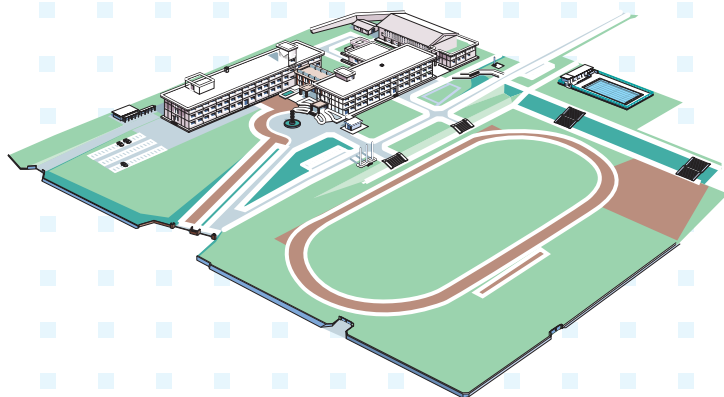
webデザインを中心に講義・実習を進めていきます。Webサイトで見られる画像や音声、そして動画などを扱うデジタルコンテンツ制作のための基本的な技術を学び、デザインに応用していくことを目指します。また、Webサイトで必要とされるユーザビリティ(使い勝手)、さらにはアクセシビリティ(例:高齢者にも対応した使いやすさなど)を考慮に入れたWebサイト制作など使う人の視点に立ったデザイン方法を学びます。

戸建て住宅や集合住宅の室内空間、喫茶店などの商業空間、公共建築物の室内空間など、建築物を対象とした空間デザインの考え方・手法を学ぶとともに、人間にとっての居住空間のあり方や居住環境をいかに整えるかを考えます。ゼミでは、家具デザインからインテリア・建築デザイン、都市・地域デザインなどを範疇として、問題点の発見から解決までを自ら考えます。これらを通して、居住環境を創造できる人材を目指しています。

広告・出版・印刷に関する業界で将来活躍できる人材を目標にしています。実習やゼミの授業では、ポスター、カレンダー、ポストカード、パッケージ、新聞広告などといったグラフィック作品や、絵本やタウン誌の編集制作などを実際につくりながら学んでいます。グラフィックデザインに関する専門知識を学ぶだけでなく、常に見る人の気持ちになって考え、そしてつくるビジュアルデザインの基本を大切にしています。

自然素材である漆をフィルターとし物事の本質を学習します。漆に関係する制作対象物の目的や社会性を重視した授業の中で、発案から完成まで一貫的な制作において漆産業をプロデュースできる能力を養うことを目指します。轆轤(るくる)や指物などの木工技術を習得し、基本的な漆塗り工程を学習するとともにオブジェやジュエリー、蒔絵や螺鈿(らでん)などを通して漆の新しい可能性を追求します。

テレビ、電気炊飯器、掃除機、冷蔵庫、電話機、洗濯機、ステレオ、CDプレーヤー、パソコン、プリンター、コピー機、椅子、テーブル、自転車、自動車など生活に密着した工業製品のデザインについて学び、関連分野で活躍できる人材の育成を目指します。そのためにデザインに関する基本技術の習得と社会を広く見つめ、どこに改善すべき点があるかといった問題意識を有し、その解決策を模索することのできる能力の修得を目指します。



自動車を利用の場合

秋田方面から【秋田南 IC から 396.5km】東北道・磐越道経由
 山形方面から【山形北 IC から 182.1km】山形道・磐越道経由
 仙台方面から【宮城 IC から 158.3km】東北道・磐越道経由
 新潟方面から【新潟中央 IC から 95.2km】磐越道
 石川方面から【金沢東 IC から 243.2km】北陸道・磐越道経由
 東京方面から【浦和 IC から 261.5km】東北道・磐越道経由
 長野から【長野 IC から 450.3km】上信越道・関越道・磐越道経由
 群馬から【前橋 IC から 311.9km】関越道・北陸道・磐越道経由
 名古屋から【名古屋 IC から 652.4km】名神高速・北陸道・磐越道経由
 大阪から【東大阪 IC から 699.2km】近畿道・名神高速・北陸道・磐越道経由
 京都から【京都東 IC から 645.3km】名神高速・北陸道・磐越道経由

列車を利用の場合

秋田から【約 4 時間 10 分】秋田新幹線・磐越西線経由
 仙台から【約 2 時間】東北新幹線・磐越西線経由
 富山から【約 5 時間 20 分】北陸・信越本線・磐越西線経由
 長野から【約 3 時間 10 分】上越・長野新幹線・東北新幹線・磐越西線経由
 大阪から【約 5 時間】東海道新幹線・東北新幹線・磐越西線経由
 東武浅草から【約 4 時間 50 分】東武鉄道・野岩鉄道・会津鉄道経由

公立大学法人会津大学

会津大学短期大学部

福島県会津若松市一箕町大字八幡字門田 1-1 〒965-8570

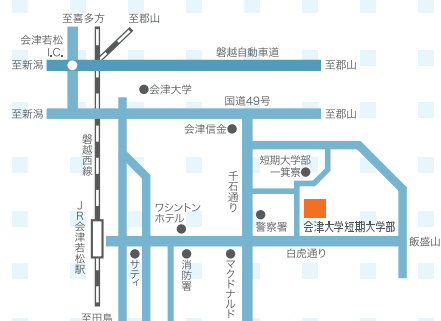
phone 0242-37-2300(代表)

phone 0242-37-2301(広報・入試等担当窓口)

fax 0242-37-2412

URL <http://www.jc.u-aizu.ac.jp/>

e-mail info@jc.u-aizu.ac.jp



会津大学短期大学部 産業情報学科 デザイン情報コース

卒業作品集 2008年版

編集

大竹南

日下智恵美

千葉宏子

発行

会津大学短期大学部 2008年3月

phone 0242-37-2300 (代表)

<http://www.jc.u-aizu.ac.jp>



JUNIOR COLLEGE OF AIZU